

4年・複式 総合（環境領域）学習指導案

第2日目1. 2限

4年オープンスペース
浅田 幸子 古川 雄次
小西 裕一 宮島 浩典
中川 岳

1 単元名 野田山博士になろう

2 目標 ・野田山に設定したマイフィールドの様子を観察し、四季ごとに野田山マップに表すことで、1年を通じて豊かな自然に恵まれ、たくさんの生き物が相互に関わりあって生きていることに気づくとともに、四季による変化を見つけることができる。

3 指導にあたって

学習材について

野田山は、標高300mの赤松林を主体とする植生である。藩政より墓地として利用され、樹木がいたずらに伐採されるというような開発はされていないため、自然が十分に残されているフィールドである。赤松林が主体であるため、景観から四季を感じづらいが、低木や下草などの植物から、はっきりした季節の変化を感じとることができる。また、野鳥、小動物、昆虫など特に珍しい種類ではないが、開発が進む前に人間の身近にいた様々な生き物を容易に目にすることができる。このように遠くからながめる景観としての自然ではなく、子どもの目線の高さに自然があふれていることで、子どもが自然に触れ、感じることができるという学習フィールドとして欠かすことのできない要素をもっている。

子どもは、3年生の時にこの野田山を探検して、野田山には植物や昆虫などの自然があふれていることを実感している。また、春と秋の探検によって、生き物が様々な変化をしていることにも気づいている。

その経験から、「〇〇は、いったいどんな生活をしているのだろう」「〇〇は、この後どう変化していくのだろう」「野田山には、ほかにどんな生き物がいるのだろう」という疑問や「〇〇について、もっと知りたい」という願いを持った子どもも多い。

そこで、子どもの願いを中心に据えながら、五感を通して、生き物のたくましい生命力や生活していくためのしたたかな知恵、日々成長していく自然を意識できるよう取り組んできた。また、野田山に生きる様々な植物や動物のうち、子どもが関心を持った生き物や気に入った場所を決め、丹念に観察したり、ふれあったりできるような活動も取り入れてきた。この活動により、どんな生き物にもかけがえのない生命が宿っていることや生命に対するいとしさ

やすばらしさを子どもたちは感じるであろう。さらに、野田山探検の後には、自分の新たな発見を伝える場で情報交換することで、生き物同士が相互に関わりながら四季折々に変化していく自然を形づくっていることに気づくであろう。そして、このような学習がきっかけとなり、自然環境を守り、よりよいものを創造していこうとする自らの学びにつながることを期待している。

指導計画（総時数18時間）

主な活動と内容	学びを広げ深めるために
1 野田山を探検する計画を立てる	①②
2 定点観察のよさ 仕方を知り 1年を通じて観察できるマイフィールドを探し 野田山マップに表す	①②
マイフィールドについて調べて 〇〇博士になろう	
3 マイフィールドの様子を観察し テーマを決め 春・夏・秋・冬の季節の野田山マップにまとめる	①②③
・植物 昆虫 樹木 木の実 鳥 動物など 自分の調べたい対象を決め 現地調査を行う	
・調べたい対象に応じて グループをつくって協力しあったり情報交換したりする	
・結果をもとに書籍やインターネットなどを使って資料を補足したり 調べる方向性を確かめたりする	
・調べたことをそれぞれの発表方法で中間報告として適時発表しあう	
4 野田山の1年間の移り変わりを 放送や掲示を利用して 全校に向けて発信する	②③

学びを広げ深めるために

① 年間を通して野田山の自然を体全体で感じとれるようにする

野田山での活動は、季節ごとに行い、その際には昼食を持参して、じっくりと自然と向き合う時間を十分を取れるようにし、五感を通して自然を感じ取れるようにしたい。また、デジタルカメラなどを持参し、生き物を映像に残し、採集は最小限にとどめたり、地面を掘りかえした後は埋め戻したりすることで、生命の尊さに気づかせたい。

→野田山の自然について調べようとする姿

② 一人ひとりの野田山博士になろうとする気持ちを大切に

3年生の野田山探検では野田山の秘密を見つけ、自然と楽しくふれあってきた。それを生かして、今年は自分の調べたい場所（または植物や動物などの対象）を決め、それについて一人ひとりが追求活動を進めることで、自然に対して今まで以上に興味を持って継続的に関わっていくことを期待している。また、調べたことを同じような内容や対象によって樹木、草花、動物などのグループに分け、まとめて交流する機会を単元の節目となるところで数回設けたり、全体でワークショップ形式で情報交換することで、他の追求方法や方向性を互いに知り合い、次の活動につなげることができよう。

→○○博士になろうと追求する姿

③ 個々の追求活動をサポートする環境を整える

野田山での活動では、子どもの相談や要求に迅速に対応したり、安全に追求活動ができるように専科を含めた学年T T体制で臨みたい。また、野田山で新たに見つけたことや調べたことを他に知らせ、他からの情報も得やすいように、学年掲示板に「情報プレゼントコーナー」や「野田山発見マップ」を設けたい。あわせて、新たな追求のための情報を得やすくするために、書籍やインターネット上のホームページを知らせ合ったりできるようにしたい。

→様々な情報を自分なりに集めようとする姿

4 本時の学習 (12/18時)

ねらい 野田山に秋の様子について調べたことをそれぞれの方法で発表し、聞き合うことで、秋の生き物の様子に興味を持ち、生き物に対する思いを深める。

本時の展開

